

緩和ケア普及啓発に関する活動報告書

提出日 平成 28年 6月 30日

緩和ケア普及啓発活動についての報告

実施団体	
特定非営利活動法人 日本緩和医療学会 厚生労働省委託事業 緩和ケア普及啓発事業	
企画名	
第 21 回日本緩和医療学会学術大会 ～あなたらしさに寄り添って～” 愛と思いやり・・・そしてユーモア・・・” 委託事業委員会企画 緩和ケア普及啓発事業(オレンジバルーンプロジェクト) 「緩和ケアの誤解は本当に解けるのか?～パブリックリレーションズから考える～」	
事前告知、募集の方法について(ポスター、チラシの配布など)	
学術大会のプログラムに掲載、公式ホームページおよび Facebook にて事前告知 学術大会中にチラシを配布	
当日の実施内容について	
日時(期間)	2016年6月18日(土) 15:45～17:15
実施場所	京都国際会館 第7会場 アネックス2
参加人数	約7,500名(学術大会全体の入場者数)
<p>具体的な実施内容:</p> <p>《プログラム》</p> <p>1. 講演(質疑応答有) 15:45～16:45 座長: 上村 恵一氏(日本緩和医療学会 委託事業委員会委員長、市立札幌病院) 下山 理史氏(日本緩和医療学会 緩和ケア普及啓発 WPG 員長、名古屋医療センター)</p> <p>I. ～がんのピアサポート活動を通して「緩和ケアの誤解」について考える～ (NPO 法人ミーネット 花井 美紀氏)</p> <p>II. ～「緩和ケアの誤解は解けるのか」報道記者であり、がん経験者であり、がん患者に 寄り添う団体を運営する立場から。～ (日本テレビ、NPO 法人マギーズ東京 鈴木 美穂氏)</p> <p>III. ～がん対策基本法 10 周年の今年、「診断時からの緩和ケア」が常識の社会へ 明日の景色を創るパブリック・リレーションズのミッション～ (オスカー・ジャパン株式会社 笠井 玲美氏)</p> <p>IV. ～緩和医療・緩和ケアの public relations はどのようにあるべきか?～</p>	

(大阪大学 平井 啓氏)

2. ディスカッション 16:45 ~ 17:15

座 長 : 上村 恵一氏、下山 理史氏

講演者 : 花井 美紀氏、鈴木 美穂氏、笠井 玲美氏、平井 啓氏

「緩和ケア」という言葉は、この10年で多くの人が「よく知っている」言葉となったにも関わらず、患者・家族だけでなく医療者ですら、“緩和ケア＝終末期医療”という印象がぬぐえないのはなぜか。この誤解を解くために、様々な領域ではどんな“パブリック・リレーションズ (PR)”を行っているのか。

効果について(アンケートの結果など)

本企画では、記者であり、自身もがん経験者でありながら NPO 法人マギーズ東京を運営されている鈴木美穂さんを始めとする、各領域で PR 活動を精力的に展開されている方々に、その手法・工夫を披露いただいた。

緩和ケアの普及啓発にあたり、学会員の皆様さまが今日からできるパブリック・リレーションズと一緒に考える時間を設けることによって、今後の更なる緩和ケア普及啓発に向けた布石となったと思われる。



「緩和ケアの誤解は本当に解けるのか？」 ～パブリック・リレーションズから考える～

「緩和ケア」という言葉は、この 10 年で多くの人々が「よく知っている」言葉となりました。それにもかかわらず、患者・家族だけでなく、医療者ですら、“緩和ケア＝終末期医療”という印象がぬぐえないのはなぜなのでしょう？この誤解を解くために、さまざまな領域ではどのような“パブリック・リレーションズ (PR)”を行っているのでしょうか？

本企画では、記者であり自身もがん経験者でありながら NPO 法人マギーズ東京を運営されている鈴木美穂さんを始めとする 各領域で PR 活動を精力的に展開されている方々に、その手法・工夫を披露いただきます。緩和ケアの普及啓発にあたり学会員の皆さまが今日からできるパブリック・リレーションズを一緒に考えていきましょう。

■日 時 平成 28 年 6 月 18 日 (土)
15:45 ~ 17:15

■場 所 京都国際会館 第 7 会場 アネックス 2

■プログラム (登壇者の敬称略、表記の時間は予定時刻)

1. 講演 (質疑応答有) 15:45 ~ 16:45

座長 上村 恵一 (日本緩和医療学会 委託事業委員会委員長、市立札幌病院)
下山 理史 (日本緩和医療学会 緩和ケア普及啓発 WPG 員長、名古屋医療センター)

- ① 花井 美紀 (NPO 法人ミーネット)
～がんのピアサポート活動を通して「緩和ケアの誤解」について考える～
- ② 鈴木 美穂 (日本テレビ、NPO 法人マギーズ東京)
～「緩和ケアの誤解は解けるのか」報道記者であり、がん経験者であり、がん患者に寄り添う団体を運営する立場から。～
- ③ 笠井 玲美 (オスカー・ジャパン株式会社)
～がん対策基本法 10 周年の今年、「診断時からの緩和ケア」が常識の社会へ明日の景色を創るパブリック・リレーションズのミッション～
- ④ 平井 啓 (大阪大学)
～緩和医療・緩和ケアの public relations はどのようにあるべきか？～

2. ディスカッション 16:45 ~ 17:15

座長：上村 恵一、下山 理史
講演者：花井 美紀、鈴木 美穂、笠井 玲美、平井 啓 (講演順)

GIFT～緩和ケアをもっと身近に



平成28年1月10日開催
 於：ナディアパーク（愛知県名古屋市）

あなたのもとへ～

緩和ケアの普及啓発・がん相談を身近に感じてもらうことを目的に街頭イベントを開催しました。

●ミニレクチャー

- ①「緩和ケアってなに」
 （愛知県がんセンター中央病院 下山 理史氏）
- ②「痛みの治療ってどんなもの？」
 （京都府立医科大学 細川 豊史氏）
- ③「がん不安や心配はどうすればいいの？」
 （名古屋市立大学病院 明智 龍男氏）
- ④「お金や仕事の心配はどうすればいいの？」
 （名古屋大学医学部附属病院 粕田 剛資氏）
- ⑤「いろんな生活の心配はどうすればいいの？」
 （愛知県がんセンター中央病院 向井 未年子氏）

様々な職種の医療者から、市民の皆さまへ、からだ・こころ・生活のことなど、どんなつらさも伝えてと欲しい、伝えることが重要であることを訴えました。

●街なかがん相談室

東海地区3県（愛知・岐阜・三重）の病院・がん相談支援センターにご協力いただき出張相談室を開催

●ブース出展

愛知県内にあるがん患者支援団体による出展。パンフレットや団体の紹介を展示。

当日の様子はNHK東海NEWSで放送されました！



* 街頭イベントアンケート *

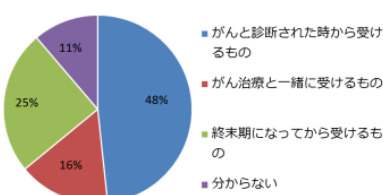
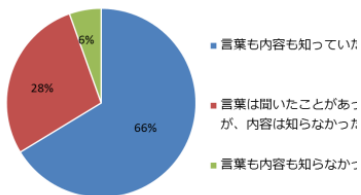
緩和ケアという言葉は知っている...94%
 診断時から受けるものという印象を受ける...48%

...まだまだ普及啓発は必要！

「緩和ケア」という言葉を知っている人は、内容を知っているか否かに拘らず全体の94%という高い結果となりました。しかし、緩和ケアと聞いて「診断時から受けるもの」という印象を受ける人は48%、「終末期になってから受けるもの」という印象を持つ人は全体の25%にも及ぶことが分かりました。このアンケート結果から、一般市民へ継続して緩和ケアの正しい理解を普及啓発することの重要性が明らかとなりました。

●「緩和ケア」という言葉をご存じでしたか？

●緩和ケアと聞いてどのような印象を受けますか？



* 参加者の声 *

- 「相談して気持ちが楽になりました」
- 「通りがかりで立ち見させていただき、あまり関心を持っていなかったが、この催し者を見学して、老化してきており、がんに関心を持ち、保健保持に気を付けたい」
- 「オープンスペースでのイベントだったので、子どもと一緒に参加できてよかった」
- 「次回も機会があれば参加したい」
- 「市民に緩和ケアを知ってもらう機会として非常に良いイベントだと思います。今年も最低1回はこのような催しをしていただくと良いと思います」

イベントメッセンジャーとして参加いただいたお笑い芸人たかまつななさんのネタ披露や、医師との掛け合いによる緩和ケアの紹介ステージも開催しました

詳しくはQRコードより、日本緩和医療学会緩和ケア普及啓発事業（オレンジバルーンプロジェクト）のFACEBOOKをご覧ください。

